

【様式1】 平成28年度「岐阜県ふるさと教育表彰」実践報告書

市町村名	郡上	学校名	大和中学校		
校長名	大坪 裕	対象学年	全学年	人数	221人
活動名	地域が誇れる大和中づくり	時間数	全校10時間 課外活動 毎金曜日朝活動で 20分間×35週	継続年数	短歌づくり28年 朝ボランティア7年 まちづくりを学ぶ、地 域協議会との関わり 3年
題材	① 自然環境（山野・河川・動物・植物・その他） [] ② 歴史（出来事・史跡・先人・その他） [古今伝授のまちづくりを学ぶ] ③ 文化（芸能・芸術・民話・風習・その他） [短歌づくり] ④ 地場産業（農業・水産業・伝統工芸・その他） [] ⑤ 地域との積極的な関わりをつくる活動等 [道の駅、長良川鉄道の駅清掃ボランティア] ⑥ その他（懇談） [大和地域協議会との懇談から生徒の活動づくりを考える]				
複数年継続するための工夫改善	<ul style="list-style-type: none"> ・古今伝授の里の学校として総合的な学習の一環として季節や学校行事ごとに短歌を詠み、掲示している。年間を通して詠んだ短歌を「桜の木の下で」という短歌集にまとめている。 ・古今伝授の里としてのまちづくりの歩みだしを学び、その様子を振り返り、大和地域協議会と連携して、今後のまちづくりの中心としての参画意識を育てる。 ・生徒会活動に、ボランティア活動を位置づけ、朝活動として毎週金曜日に道の駅「やまと」と長良川鉄道「郡上大和駅」の清掃活動に取り組んでいる。 				
<p>1 ねらい</p> <ul style="list-style-type: none"> ・古今伝授の里としてのまちづくりの歩みを学び、そこに込められた住民の思いや願いを知り、ふるさとに対する郷土意識を育てる。 ・地域住民としての意識を育み、郷土に誇りを持ち、まちづくりへの参画意識を育てる。 <p>2 活動の概要</p> <p>【短歌学習】 全校生徒</p> <p>古今伝授の里づくりの一環として取り組んできた短歌学習を通して、ふるさとの文化を知り、豊かな心情を養う。年間5回の短歌指導の時間を通して、自己の成長や自分の思いを表現豊かに短歌づくりに取り組んでいる。</p> <p>詠んだ短歌は、校内掲示したり、道の駅へ掲示したり、各種の短歌大会へ投稿している。（別紙 短歌学習計画参照）</p> <p>【大和地域協議会の講演と交流】 全校生徒での学びと生徒会執行部を中心としての懇談</p> <p>古今伝授の里のまちづくりの始まりを知り、そこに込められた当時の住民の思いや地域への願いを学び、今後の自己の生き方を考えた。</p> <p>大和地域協議会との懇談を通して、生徒会として地域とどのように関わることが大切なのかを考えてきた。（別紙参照）</p> <p>【地域でのボランティア活動】 生徒会執行部を中心に全校生徒の有志</p> <p>地域が誇れる大和中学校づくりの一環として、毎週金曜日の朝活動で、道の駅「やまと」と長良川鉄道「郡上大和駅」の清掃ボランティア活動に取り組んでいる。</p> <p>さくら道ネーチャーランエイドボランティアとして、ランナーへの給水、食事の提供等のエイド運営にボランティアとして参加、アフリカに毛布を送る活動のボランティア（生協主催）にも参加して、中学生として地域に貢献しようとする態度を育ててきた。今年度は、PTA総会時や道の駅で、熊本地震の義援金を呼びかけた。（中日新聞社を通じて義援金として送金）</p> <p>大和「ふれあい祭り」では生徒ボランティアで、会場の清掃、出店の手伝いを任せ、地域住民との交流に努めた。</p> <p>3 地域住民との関わり、地域社会への貢献の様子</p> <p>【短歌学習】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・短歌学習では、郡上文芸祭、くるす桜薪能献歌、古今伝授の里短歌大会、NHKジュニア短歌に応募したり、ふるさと祭りで掲示をしたりして、古今伝授の里の学校として短歌学習の取り組みを紹介してきた。季節や行事のたびに、短歌を詠むこと 					

で、より豊かな表現ができるように指導し、成果を上げている。くるす桜、古今伝授の里の短歌大会、ふれあい祭り等でも短歌を掲示し、地域の方々に鑑賞していただいている。(平成27年度NHK全国短歌大会ジュニアの部 学校優秀賞受賞等)

また、道の駅に生徒の短歌を掲示したり、校内の廊下には常に短歌を掲示したりして、生徒はもとより来校者、住民にも親しんでもらっている。

【地域協議会の講演と交流】

- ・地域活性化団体である大和地域協議会との交流を3年前から始めてきた。これは、「古今伝授の里」としての大和のまちづくりの思いや願いを中学生が受け継ぎ、次代につなぐ、まちづくりを進めたいという願いからである。

平成26年度に行った地域協議会と3年生生徒の交流会では、生徒の中から、大和中学校で大事にしている「ひまわり宣言」(人権意識の高揚を願っての宣言)を地域の中でも大切にしたいという願いが出された。その後、地域協議会の活動が「ひまわりプロジェクト」としてスタートした。(地域協議会の活動の名称としても、活動の願いとしても、中学校の「ひまわり宣言」を大切にしたいということである。)

その後、平成27年度には、「古今伝授の里」のまちづくりの始まりを知り、今を思い、次代を考えることが、中学生にとって大切だと考え、地域協議会からまちづくりを始めた当時の町幹部、現地域協議会会長、当時の中学生で今現在まちづくりに関わっている人を講師に迎え、「まちづくりへの思いや願い」と自分の生き方考える講演会を学年ごとに開催した。その後、地域協議会の幹部と生徒会執行部との懇談会を持ち、生徒会の活動として地域との交流を模索してきた。その中で、生徒会の願いであった「ひまわりTシャツ」を地域協議会の支援をいただき、体育祭時に団で着用したことで、「つながる やまと～ひまわりプロジェクト～」活動啓発につながった。他のボランティア活動時や朝活動のランニング、駅伝大会等にもTシャツを着用することで、生徒も地域作りの一役を担っていることを実感している。

また地域協議会との懇談会で話題となった「短歌しりとり」は、本年(平成28年)10月1日(土)の地域参観日にて、今年生徒達が詠んだ千首以上の短歌をもとに「短歌で千首のしりとり」として、保護者、地域の方々の参観のもと、生徒会主催行事として実施した。参観の地域の方々から、古今伝授の里の活動が、生徒の世代にも受け継がれていることを喜ぶ声があった。

【地域でのボランティア活動】

- ・地域の一員として、地域住民が使用する道の駅や長良川鉄道の駅清掃を、朝活動で生徒会がボランティアを募り、毎週継続して取り組んでいる。そのことで自然豊かな大和をさらに大切にしようとする意識を育んできた。同時に、中学生も地域社会に貢献できることがあることを学んでいる。
- ・地域の「ふれあい祭り」への中学生ボランティアとして参加し、今年は1つのブースを中学校に任せ、生徒が地域住民として活躍している姿を多くの方々に見てもらうことができた。ボランティアとしてのふるさと祭り参加は、前年度までも行っていたが、ブースを任せられたことによって、生徒の活動意欲が高まったのは今年度からである。今年度の参加ボランティア生徒は、27名である。
- ・桜さくら道国際ネイチャーランの大和地区のエイドボランティアとして、生徒会執行部を中心に10数名の生徒が参加し、ランナーの給水、食事の世話をを行った。
- ・地域公民館主催のかたるた大会の進行、アフリカへ毛布を送る活動のボランティア等、様々な団体からのボランティア活動への参加依頼に、生徒会役員を中心に多くの生徒が参加をし、中学生でも地域貢献できる活動を推し進めている。

4 活動を通しての児童生徒の変容

「古今伝授の里づくり」の一環として取り組んできた短歌学習の成果として、生徒は自己の成長や自分の思いを短歌で表現豊かに詠んでいる。長年の取組の成果である。

まちづくりの始まりを知り、過程を振り返り、今後を考えることで、中学生も地域づくりの一員であるという意識が生まれてきた。今までよりも地域行事や地域への愛着が生まれつつある。同時に生徒会が進めてきた地域へのボランティア活動にも積極的に参加しようとする生徒が増えてきている。